

令和7年度第2回半田市図書館協議会議事録

開催日時	令和7年12月3日(水)	14時~15時30分
開催場所	半田市立図書館 第1会議室	
会議次第	1. 開会 2. 挨拶 3. 議題 ・報告事項 (1) 第2次半田市子ども読書活動推進計画の評価について (2) 半田市図書館運営基本計画(案)の報告について ・協議事項 (1) 半田市立図書館運営基本計画の進捗管理・評価について 4. その他	
出席委員 (欠席委員)	出席委員 会長 榊原肇、(副会長 大矢里実) 委員 北中美郷、山田康司、古川清孝、佐藤幸恵、加藤美智子、 間明田みどり、船戸淑子、齊藤裕美子 ※敬称省略、名簿順	
事務局	図書館長 藤井寿芳、副主幹 竹内由香、主査 岩本紀子、 主事 清水太士、主事 太田絢香	
	議事概要	
1. 開会	<p>(教育部長)</p> <p>日ごろから図書館の運営に対してご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。</p> <p>図書館では、現在、図書館事業・サービスのさらなる充実と向上を図るため、図書館の基本的な運営方針を定める半田市立図書館運営基本計画を策定している。</p> <p>基本理念として「どこでも だれでも つながる図書館」を掲げていく予定である。本や情報、イベント、講座を通じて、新たな学びや発想、つながりや交流が生まれ、市民からあってよかったと思われる場として、誰もが利用しやすく、利用したいと思ってもらえるような図書館を目指している。</p> <p>計画は策定して終わりではなく、計画の進捗をチェックする進捗管理が大切になってくる。進捗管理にあたっては、透明性と公平性を確保するとともに、市民参加による協働の視点を重視して、本協議会を中心とした体制の下で実施したいと考えている。</p> <p>本日は、図書館運営基本計画の進捗管理や評価について、委員のみなさまからご意見をいただきたい。図書館事業・サービスのさらなる向上につながる、より良い仕組みをみなさまと一緒に作り上げていきたい。</p>	

<p>2. 挨拶</p>	<p>(会長)</p> <p>本日の内容では、半田市立図書館運営基本計画（案）の報告と、進捗管理についての議論が中心となる。図書館運営基本計画は、今後10年間における図書館の姿を示す大変重要な指針となる。</p> <p>計画書が現場の実情や利用者の声と乖離しては、実効性を持つ計画とはならないと思う。図書館を利用しやすく、使いやすい場所にしていくためには、みなさまがボランティア活動で日ごろから感じている視点や市民の声が欠かせないと思っている。</p> <p>今、何ができていて、何が課題なのか、計画が地域の実態と合っているのか、実行段階でどんな工夫がされたのか等、具体的なご意見は、進捗管理・評価において非常に大きな意味を持つ。</p> <p>本日は、堅苦しく考えず、素直に気づいたことを率直にご発言いただくとありがたい。みなさまの考えが、この計画を紙の上の計画でなく、実際に動く計画へと育てていく力を持っている。</p> <p>今日の協議会が、今後の図書館の運営を力強く後押しすることを願っている。</p>
<p>3. 議事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項 (1) 第2次半田市子ども読書活動推進計画の評価について (事務局) ・第2次半田市子ども読書活動推進計画の評価について事務局より説明 (会長) ・ただいま、説明いただいたが、意見等はないか。 ・例えば、学校では、外国籍の方や外国にルーツのある方向けの蔵書で、いろいろな言葉のものがあるのか。 (委員) ・学校図書館にはないが、日本語指導教室に毎月図書館からやさしい日本語の絵本を届けてもらっている。こどもたちは毎回楽しみに読んでいる。 (会長) ・言語は英語だけでなく、ブラジルをはじめ半田にはたくさんの国の方がみえるので、全部揃えるのは難しいが、いろいろな国の本があるとよいのではないか。 (委員) ・学校の日本語指導教室では日本語を教えていきたいので、本としてはやさしい日本語で書かれている絵本などがわかりやすい。 (会長) ・外国籍や外国にルーツのある方には、その国の本をお届けすると思いがちだが、日本に来ている外国籍の方は、けっこう日本語がわかる人も多い。特にこどもは上達が早い。現状として、父親が働き

に出て日本語に触れるが、母親は日本語に触れずに上達していかない状況もある。一方で、こどもは学校等で日本語に触れる機会が多く上達するが、母国語が上達していかない側面もある。

(委員)

・家庭の方針になるが、これから日本で暮らしていくこどもにとっては、第1言語は日本語の方が暮らしやすいと思う。逆に国へ帰る予定のこどもには母国語が第1言語の方がよい。こどもによっては、2か国語を学ぶことが難しいこともある。ご家庭でしっかり考えて第1言語は選んでいただく必要がある。

(委員)

・外国籍のこどもは、小中学校に通う義務はあるのか。乙川中学校にいたときに、横川小学校には通うが、乙川中学校には通っていない現状があり、中には公民館を利用するこどももいて、地域から乙川中学校へ連絡もあった。

(委員)

・学校へ通わせないと思って訪日するご家庭はほとんどなく、地元の学校か、外国人学校にほとんどのこどもが通っている。

(教育部長)

・教育委員会でも、どこかの学校にってもらえるようにフォローをしており、ほとんどの方が小学校・中学校や外国人学校に通っている。

(委員)

・おだんごぱん（ボランティア団体）では、乙川東小学校にお話し会に行くが、ブラジルのこどもがいる学年には、あえてブラジルの昔話を覚えていって語るようにしている。日本語でもルーツのある母国の文化や習慣などに触れるのは、こどもにとってはプラスになると思っている。

(会長)

・時にはポルトガル語ではなされるのか。

(委員)

・日本語でその国のお話を語っている。日本に来てしまうと母国の文化や習慣を知らないこどももいる。

(委員)

・今年から委員になったので聞きたいが、この評価は誰が評価しているのか。

(事務局)

・図書館での自己評価になる。

(委員)

・自己評価であることを初めて知ったが、どのように評価しているのか。

(事務局)

・各取組を行っている正規職員で評価している。

(館長)

・担当者はもちろんだが、館長、監督職も含め、組織で評価している。各事業を組織として客観的に見て総合的に判断している。

・協議事項の内容になってくるが、自己評価だけでは不十分で、市民や利用者の評価を入れていくべきところとは考えている。

・外国にルーツのあるこどもについては、大人も含めて図書館は誰もが利用できる場所である。図書館では外国語の図書資料を揃えようとするが本そのものが流通していない実態がある。多文化共生の取組は広く、日本語や母国語に慣れ親しんでもらうことなど、図書館として何ができるかを、国際交流協会とも連携してニーズ把握から行い、今後の取組につなげていきたい。

(会長)

・日本語で書かれた外国の本が、国ごとなど整理されて配架されているだけでも違うと思う。

(委員)

・基本方針1のブックトークについて、「依頼がほとんどなかった」という書き方が消極的になっていると思う。学校の授業の兼ね合いもあると思うが、図書館側からどの程度アピールしたのか。

・基本方針3のボランティアの交流については、としょかんまつりなど行事では交流はあったが、それ以外の場面では共通点がないボランティア同士では、あえて交流の機会を作ることはない。交流してほしいということを初めて知ったし、図書館運営についてボランティアで意見交換が必要だと思っていた。

・今年きりんの会（ボランティア団体）では、ボランティア養成講座を開催して4名新規会員を獲得できた。とても大きな成果だと思う。今回は、外部講師への謝礼は会の会費から出したが、図書館からバックアップしてもらいたい。外部講師は題材を選んだり、講義内容についても上手だったので成果も出たと思うが、会費だけでは継続性が難しい面もある。

(会長)

・図書館の評価が自分たちの評価として考えてご発言いただいた。図書館からボランティアへ伝える機会がもっとあるといい。また、図書館事業の中で、ボランティアが必要としている講師などを呼べるといいのでは。

(委員)

・おだんごぱん（ボランティア団体）でもボランティア養成講座を行い7名が加入して、会員獲得についてたくさんのコツを学ぶことができた。ボランティア交流会は、そういった内容を共有できると

有効だと思う。

・としょかんまつりの打合せでは何度もボランティア同士、顔を合わせたし、この図書館協議会の前後でも情報交換の場は設けることができる。

・学校でのブックトークの依頼がないのは、学校の先生方への周知が不足しているからではないか。ブックトークや調べ学習の実績をまとめ、リストを作成している図書館もあるので、同様な取り組みをすることで、先生方が知る機会となる。

(委員)

・学校図書館協議会で部長をしているが、学校図書館部会の力不足でもある。コロナ禍の前はブックトークや調べ学習の依頼が多かったが、コロナ禍の間に学校の先生の入替わりがたくさんあり、本と親しむ機会を知らない若い先生が担任をしている現状があり、依頼数が減ってしまったと思われる。ブックトークや調べ学習の良さを知っている先生もいるので、学校図書館部会としても広げていきたい。来年度については、図書館司書と相談しながら、先生に知ってもらう機会を設けていきたい。

(委員)

・ブックトークはどんなものか。

(委員)

・テーマに沿って本を選んできてもらい、そのテーマについて本を介して子どもたちに伝えてくれる。例えば、夏休みが楽しみになるようなテーマでお願いしたら、本当に、子どもたちが夏休みを楽しみになった。

(事務局)

・学校からテーマをいただいて関連本を選んで持っていくが、ブックトークは、本の全部を読み聞かせるのではなく、よいところでストップして、その後子どもたちが自分で本を読んでもみたくなるようにおこなっており、読みたい気持ちを本につなげていくものである。

(委員)

・PTAのイベントでも検討していきたい。

(館長)

・ブックトークについては、図書館のPRが足りなかった部分もある。やり方の事例はたくさんあり、先生方からお声かけいただけるような内容にしていきたい。

・ボランティアのみなさんは、図書館を運営していく上で、大切な仲間だと思っていて、読書支援をはじめ、図書館事業には欠かせない存在である。

・図書館運営基本計画では、ボランティアとの連携強化については記載しているし、また、お金の部分についても、図書館事業として

ボランティア養成講座を実施していくことも併せて考えていきたい。私自身が今年度のボランティア養成講座に参加させていただいて、改めて必要性を感じたし、また、受講した市民が行動に移してもらうことも大切で、図書館としても必要な事業である。

・ボランティアの連携では、同じ思いを持つ者同士、横の連携があることによって、各々の活動にも有意義なものとなると思う。

(榊原会長)

・子ども読書活動推進計画の評価について、みなさんから多くの意見をいただいた。この意見を次年度へ活かしてもらいたい。

(2) 半田市図書館運営基本計画(案)の報告について

(事務局)

・半田市図書館運営基本計画(案)の報告について事務局より説明

(館長)

・図書館運営に関して、この図書館運営基本計画(案)のような計画は、現在、図書館にはないもので、改めて今後の運営方針を示すものである。今後の運営方針について、図書館員は当然ながら、市民のみなさんにも理解いただいて一緒に図書館を作っていきたいという思いで計画書を策定していることをご理解いただきたい。

・図書館運営基本計画(案)は策定委員会を別で設けて計画書の策定を進めている。図書館協議会の委員のみなさまには、本日、報告事項として計画書(案)についてご説明させていただき、ご意見をいただきたい。ご意見については、反映すべきところは修正して、策定委員会で確認していく流れとなる。

(会長)

・策定委員会にも参加している委員からご発言をお願いしたい。

(委員)

・図書館運営基本計画策定委員会の委員をしているが、図書館の今後の運営方針について、計画(案)として図書館が取りまとめたものに対して、委員として私たちは意見をしている。図書館職員も委員もよりよい計画(案)となるように策定委員会では議論を進めている。

(会長)

・地域開放型学校図書館という言葉もあったが、策定委員会委員である学校関係の委員の意見はどうか。

(北中委員)

・地域開放型学校図書館は、まだ、校長会でも話題になっていない内容である。計画(案)では地域開放型学校図書館を進めていきたいということは読むとわかるが、具体的にしていくには、1つ1つ検討が必要なものである。

(館長)

・計画(案)には、地域で誰もが利用しやすい図書館サービスをと
いう部分で、地域開放型学校図書館や移動図書館という言葉を書き
載せているが、やることを断言しているものではなく、今後、検討を進
めていくという内容で記載している。

・地域開放型学校図書館については、現在、乙川東小学校の建替え
に合わせて、こども関連施設や地域交流施設も含めた複合施設とし
て、地域住民と検討を進めている。新たに作る地域交流施設ととも
に、学校図書館も地域の拠点の一つとして議論を進めている。乙川
東小学校で複合施設として半田市のモデルとなることができれば、
各地域に広がっていくことも期待できる。

(会長)

・先の日曜日にグレンコーの庭でイベントがあり、図書館の本に触
れる機会があった。その前にもコココリンでパンとコーヒーのイベ
ントに図書館の本が活用されていた。そういったイベントへの参加
が図書館にもつながるものだと感じた。

・他にも策定委員会委員である委員ご発言をお願いしたい。

(委員)

・計画(案)の取りまとめや意見の反映など、図書館の作業量のこ
とを考えると、ただただ感心する。この計画(案)は、今後の方針
が書かれており、大変有意義なものとなっている。

(委員)

・資料を見ると、中高生に本を読んでもらいたいという内容が多く
あった。中学生は部活動がなくなり朝部もないので、朝の時間を活
用して、例えば、朝の読書タイムを設けるなどの取り組みもできる。

・高校生についても、ハードルはあるが、高校生が小学校へ行って
読み聞かせをするなどの取り組みもできる。

(会長)

・ご提案いただいたが、学校が終わってからなら、公民館の活用も
できるのではないかと。

(委員)

・そろばんや習字などのグループがあり、夕方になるとこどもたち
が集まってくる。図書館の本を読む人もいれば、勉強をしている人
もいる。

(委員)

・気軽に立ち寄れる居場所とするならコミュニケーションが取れる
ようにすることも大切で、図書館内は静かにしないといけないとい
う意識もあると思うが、親子で会話できるエリアと静かにするエリ
アと分けるともっと人が来やすいと思う。

・市役所各課がいろいろなテーマで、地域課題解決支援コーナーと

	<p>して展示しているので、それに合わせた講師とトークができるような連続講座を年間通して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ティーンズの利用については、ティーンズ専用の部屋を作って本を集めて、そこには大人は入れないようにして、談話できるスペースと勉強できるスペースを作ると、ティーンズの利用が増えたという事例もある。 ・読書通帳についても、読んだ冊数によりレベルが上がっていくような仕掛けやプレゼントがあったりすると、さらに好奇心が湧き取り組みやすいのではないかと。将来的にはデジタル化して、図書館と学校図書館も合わせて管理されていくとよい。 <p>・協議事項 (1) 半田市立図書館運営基本計画の進捗管理・評価について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半田市図書館運営基本計画の進捗管理・評価について事務局より説明 (館長) ・進捗管理・評価の方法のたたき台として本日お示しさせていただいたが、計画は令和8年度からスタートするので、実際に評価するのは再来年の令和9年度となるため、来年度もこの議題を議論いただくこととなる。 (会長) ・今日いろいろな提案やご意見もあったので、それも踏まえた評価ができる基準を次回以降に進めていくこととする。 ・進行を事務局へお返すする。
4. その他	<p>(事務局)</p> <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知多信用金庫様の寄附による児童コーナーの整備について ・令和7年度上半期地域課題解決支援コーナーの実績報告について ・市民活動団体等と連携した講座・イベントについて <p>上記について、事務局より説明 (会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市報に新たな本との出会い本の福袋が12月13日(土)～1月6日(火)にあるのでご紹介する。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回、第3回半田市図書館協議会は、令和8年3月26日(木)14時から15時30分、半田市立図書館第1会議室で開催予定。 <p>(終了)</p>

